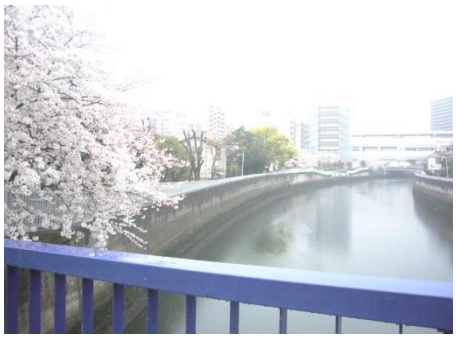
すてき銭湯ばなし

大 正 湯

2014 年 5 月 19 日

「習うより慣れろ」で継ぎました

４月はじめの桜咲く雨降りの日、京急蒲田駅そばにある大正湯さんを訪ねて、ご主人・渡辺孝司さんにお話を伺いました。



ちょうど薪の整理中のところ、釜場のよこのお部屋におじゃましました。

この１０年で変わったのは

この１０年くらいで変わったことは、まず駅周辺が変わりましたよね。それから、すぐそこの大田体育館もきれいになったし。前のはまあ古かったですよね。われわれが小学生のときからだから、もう４０年以上前です。

うちの家業でみたら変わったことは、やっぱりお客さん減ったってことですかね。今もすぐそこが空き地ンなってますけど、あすこも４世帯ぐらいのアパートだったんですよ。去年の暮れに住んでた人がみんな出て、取り壊して。風呂なしのアパートはまだありますけど、ただ、はいり手がいないと思いますね。

風呂屋が、このエリアに一軒、このエリアに一軒っていうふうにうまく点在して残ればいいんですけどね、そういうわけじゃなくて。ここはぜんぜんなくて、こっちには２、３軒っていうふうになっちゃうとね、困りますよね。じっさい、そういう現象がおきつつあるんで。ある程度、このエリアには１軒、このエリアにも１軒は残しておくように、っていうような考えを（行政にも）もっていただけるといいですね。どんどん歯抜け状態になっちゃうとね。

つい２月いっぱいでそこの東湯（あずまゆ）さんがやめられたんですよ。うちから平和島方面で１軒、２軒、３軒・・５軒ぐらいなくなっちゃいましたね。京急の駅でいうと、平和島・大森町の間からず一っとこっち（蒲田方面）うちまでないんですよ。経営者のほうも年齢あがってますから。なるべく体が動くうちに手を離れたいっていう考えがね・・。夫婦でやってて奥さんが具合悪くなったりするとね、商売ンならないですよね。店に奥さんがいてうらに自分がいて、って

なると、店でなんかあるとこっちが応援に行かなきゃならないですから。下足の札がないとか、ロッカーの札がないとか・・けっこうあります。よく探してみると、あ、ポケットにはいってた、とか。

やめて最初のころはお年寄りでもバスに乗って来るんですよ。でもやっぱりそういう人は、やがて来なくなりますよね。そのあとどういうふうにしてお風呂へはいってるのかわからないですね。そういう人たちをどうすんのか、っていうのがね、心配ですね。役所のほうでも考えてもらいたいですね。自転車で来る人もいるけど雨が降るとその人たちも来なくなっちゃうから。

ドラマ『時間ですよ』みたいでした

うちは、祖父と祖母がここへ来たのが昭和９年なんです。新潟の出身で、所帯を持って東京へ出てきたとき三軒茶屋でやり始めて。それからここへ。大正湯っていう風呂屋がすでにここにあったそうです。それでそのままずっと・・戦後にじいさんばあさんがここを買ったのかな。

うちはちょっとおもしろくて、おやじはこの商売やってないんですよ。おふくろはもともと風呂屋の出なんで。じいさんが初代、おふくろが２代目っていう感じです。おやじももちろんここにいましたけど、ちょうどテレビの『時間ですよ』みたい。あれもおかみさんが店番やってて、だんなさんがサラリーマンで帰ってくる・・あんな感じで、似てるような。わたしが孫で、風呂屋の仕事はだから、覚えるっていうよりは、たえずここにいて生活してますからね・・習うより慣れろで。

↑大正湯さんのお風呂の「もと」になる大きな釜

↑持ち込まれた廃材についてきてそのまま薪置き場に定着しているプレート。第２の活躍の場で生きています。

子どものころのお小遣い稼ぎは・・

子どものころ、うちは、あの「カラン」っていうのありますよね。あれを磨くと、一個に対して５円もらえる、っていうふうにして、よく小遣い稼ぎをしましたよ。

昔のつくりでしたから（一列でお湯用と水用合わせると）３０個ぐらいあったんですよ。昔はけっこう多く座れるようになってて。

たしか（男湯・女湯どちらか）片っぽで、３１０円ぐらいもらったんですよね。両方やると６２０円・・小学生にしちゃあ、いい小遣いです。

一日でやろうと思えばもう朝起きてすぐ始めて。一週間に一回ぐらいやったかな。

↑今も磨きの技術が健在。ピカピカのタイル

毎日の仕事

　薪の整理なんかも、よくとれば、いい運動になるし。当然毎日ですね。業者まかせですから、いつ来るかわからない。定期的に自分で取りにいってる人もいますけどね。一週間に一回とか、自分でトラックで。

↑薪として持ち込まれた「変わったもの」たち。燃やしてしまわずにとっておくうちに陳列コーナーになっています。

　うちは燃料は薪がおもですね。ここのところ、一時の寒さからみて、あったかくなってきましたから、だいたい薪でまかなっちゃいます。冬場はＡ重油で重油バーナーも使いますけど。いちばん燃料費高いんじゃないですか。今いちばん普及してるのはガスじゃないですかね。煙突もいらないですし。

　もうけっこう煙突がないところも多いですよね。やっぱりあの東日本大震災以来、こわいっていうんで。何本か倒れましたからね。どこへ倒れるかわかんないですもんね。

↑排水口がカニの模様。遊び心のある業者さんのしわざだそうです。

　掃除ですか？　うーん、若いころからみると、「あーあ、やだな。」と思うこともありますよね。夜の１２時すぎて始めますからね。１２時に終わって（お客さんが）パッと出て行かれるわけじゃないですから。それから窓を閉めたりなんかしてから２時半すぎぐらいまでかかっちゃいますね。釜場は、薪を燃してるんで絶えず掃除してないと煤がついちゃいます。あとタイルの目地とかはちょっとこすってやればとれちゃうんです。

　気楽だっていえば気楽ですけどね。他人からなんか言われなくっていいから。でもやらなきゃやらないなりに自分に返って来ますからね。なんだかんだやってると、へたすると５時ごろンなっちゃうんです。だれかに頼むっていってもなかなか思いどおりにはやってくんないでしょうからね。

↑サウナ室。窓の外は露天

↓外はすがすがしい露天風呂。（蛇足ながらお客の立場として発言。とってもおすすめです。）

　自分自身は商売中（お風呂に）はいることもあります。ものの５分かそこらで出ちゃいますけど。湯加減とカランやシャワーのお湯がどのぐらい熱いかな、とかみるために。洗い場の湯気がどのぐらいかなってのをみたり。これから暑くなるから少しずつ窓開けていかなきゃならないんですよ。それを調節するために。あしたもうちょっと開けようかな、とか。まあ、もとの釜の温度を８０～９０度に上げとけばだいたいだいじょうぶなんですけど、それを下げちゃうと影響してきます。

銭湯主人のいまむかし

　祖父の時代とのちがいですか？　そのころはそれこそあの『時間ですよ』じゃないですけど、従業員がいました。うちも男の人２人、女の人２人従業員いましたね、わたしのちっちゃいころは。それこそ風呂屋のおやじなんて遊んでるようなもんだって言われてました。

　組合に出かけて、帰って来るのは夜中だったり。昼間組合の集まりがあって、おやじさん同士でちょっと飲みに行っちゃったり。いなくたって商売できましたからね。昔はいい時代だったんですよ。

↑当時からかかっている柱時計。時代の移り変わりを見つめて今も大正湯さんの脱衣場で見守っています。

↑見守っているのは柱時計だけでなく、このガマくんも。大正湯さんの女湯にいます。

男の人２人は、番頭さん。釜燃しと店番。女の人２人は脱衣場で、子どもがけっこう来ましたから、着せ替えなんかするのを手伝ってました。それが当たり前だったんじゃないですかね、そのころは。組合へ行くと、そういう時代の人たちを親に持ってる人たちがいるんで「うちのおやじたちは一番いい時代だったよな」「おれたちはなんかな・・」なんて話してるんです。

今は従業員もなにもいないし、全部自分でしなくちゃならないし。そうだねー、オイルショックごろまでじゃないですかね、そういうのは。そのあとやっぱりお客さんは減ってきてますから。自家風呂の普及率が上がってきて。

子どもたちに「浴育（よくいく）」を広めよう

うちは店を直してもうそろそろ３０年ぐらいになるんですよ。この（お店のうしろにあるお話をうかがった部屋のある）建物は、昭和４１年の建物で、（隣りの部屋がある）そこから向こうが戦後焼けたあとに建てたところです。

４１年ごろはね、まだ風呂屋は人がはいってたから。そのころ、先を見てビルにするって人もいましたし。やっぱり木造のほうが天井が高くていいっていう考えの人もいました。

さきざきを考えて「浴育（よくいく）」っていうことで、月一回第一日曜日に小学生以下の子どもを無料にするっていうのを大田区でやってます。公共の場で子どもを育てるのがいいんじゃないかってことで。銭湯へ来ればだいたい他人とのマナーってものを学べるし。始めて１年以上はたちますかね。まだまだ浸透してないですけどね。

ロビーや脱衣場にいる美しいさかなたち

家でやる商売だから家でできる趣味じゃないと、とおっしゃいます。池や水槽を眺めて過ごせるお客の立場として、大歓迎のご趣味です。

↑ロビー。錦鯉が泳ぐ池あり。ご主人・渡辺さんの趣味でもあるので本格派です。↓

↓脱衣場には水槽が。さかなも水草もみごとに美しい！